

# 美しい森林づくり

## 「森林・林業に親しみ、 理解を深めていただくために」 山形森林管理署最上支署

山形森林管理署最上支署では、森林・林業の重要性や、森林資源の有効活用、地域の安全・安心に向けた事業などについて、地域の方々に理解を深めていただけるような取組を、地元の行政やNPO法人等と連携しながら進めているところです。今回は、平成28年度に実施したそれらの取組の一部をご紹介します。

### ○遊々の森を活用した森林の体験教室

最上町、NPO法人山と川の学校、最上支署の3者において、平成28年3月に、最上町親倉見地区の国有林を対象に、子どもたちが様々な体験活動を行うフィールドとして国有林を提供する「遊々の森」(しぐらみの里)の協定を締結しています。

この協定に基づいて、同年10月に、3者共催で“川上から川下まで”をテーマに森林の体験教室を実施しました。

当日は、あいにくの雨模様にも関わらず、最上町内の小学4～6年生7名が参加し、遊々の森での枝打ち体験や、チップ工場、最上町が設置している木質バイオマス施設(チップボイラー)の見学などを行いました。普段できない体験をした子どもたちからは、「初めての枝打ちは難しかった」、「また来年も参加したい」といった声も多く聞かれていました。

この教室を通して、子どもたちに「地域の森林の大切さ」、「木材が循環可能な資源であること」などを伝えることができたと考えています。



枝打ちを初体験



チップ工場を見学

### ○地すべり防止工事の見学

大蔵村大字南山(銅山川地区)は、火山の堆積物が堆積した脆弱な地質(シラス)と急峻な地形、ま

た冬には3mを超えるような豪雪地帯という特性から、地すべり災害が頻発する地域です。このため、地域の要請を受けて、平成4年から大規模な地すべり防止工事(銅山川地区民有林直轄地すべり防止工事)を行っています。

この工事について、大蔵村長より「もっと地域の方々に知っていただくことが必要」とのご意見を頂きました。このため、平成28年10月には、地すべりと治山事業の関わりについて理解を深めてもらうことを目的に、村立大蔵小学校5年生23名を対象として、同地すべり防止工事の見学会を行いました。

見学に先立ち、支署職員が講師となり、地すべりの発生の仕組みを学習しました。児童たちは銅山川地区地すべりの特徴であるシラスの手触りや硬い泥岩と地下水の関係を学び、地中の現象に想像を膨らませました。

見学では、地すべりの原因である地下水を排水するためのトンネルに入坑しました。絶え間なく流れる地下水の様子を見た児童たちからは、「地下水が出なくなることはあるのか」、「自分たちは地中のどのあたりにいるのか」など次々に質問がでていました。また、地上部では地下水を集めるための管を設置する作業を見学し、地下のトンネルに向かって100m以上も掘っていることに驚きの声が上がっていました。

見学を終えた児童たちから、村内でこのような大きな工事が行われていたことに驚いたという感想が多く聞かれていました。



事前学習の様子



排水トンネル等を見学

今回、ご紹介した事例は一部ではありますが、最上支署では、引き続き、森林・林業の重要性や、地域の安全・安心に向けた取組などをよりご理解いただけるような取組を行っていきたいと考えています。